



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

## ノーベル平和賞ベネズエラのマチャド氏に

### 意見がちがっても、話し合って決めるのが民主主義



ノルウェーのノーベル委員会は、2025 年のノーベル平和賞をベネズエラの反体制派リーダー、マリア・コリナ・マチャド氏（58）に贈ると発表しました。マチャド氏は、長年にわたり国を支配してきたマドゥロ大統領の独裁政治に反対し、自由で公正な選挙を求める活動を続けています。2024 年の大統領選では、野党の候補ゴンサレス氏を支えて国民の希望を訴えましたが、選挙では不正があったとされ、マドゥロ氏が 3 選を宣言しました。野党側は「実際はゴンサレス氏が勝っていた」として、独自の集計をインターネットに公開し、国際社会の支持を得ました。

しかし、マチャド氏自身は立候補を禁じられ、命の危険もあるため、今も身を隠して活動を続けています。ノーベル委員会は「彼女は独裁の闇の中で、民主主義の炎を守り続けた」と評価し、勇気と希望の象徴としてたたえました。受賞を知ったマチャド氏は「信じられません。これは私一人のものではなく、国民全体の努力が認められたのです」と涙ぐみながら語りました。

ノーベル委員会は、彼女の安全を願いながら、授賞式を 12 月 10 日にノルウェーの首都オスロで行う予定です。マチャド氏の勇気は、世界で民主主義が危機にある今、人々に希望を与えています。

（ニュース参考 BBC NEWS JAPAN）



南米ベネズエラの野党指導者マリア・コリナ・マチャド氏



ベネズエラの首都カラカスで選挙結果に抗議する市民

ノーベル賞というと科学の賞を思い浮かべる人も多いと思いますが、実際には物理/化学/生理・医学/文学/経済学/平和の分野があります。この賞は、スウェーデンの発明家アルフレッド・ノーベル（ダイナマイトを発明した人）が「人類に最も貢献した人に賞を贈るように」と遺言で残したことから始まりました。今回平和賞の受賞が決まったマチャドさんですが、現在も身を隠しながらの生活のため 12 月に行われる授賞式に出席できるか分からない状況だそうです。マチャドさんが命がけで守ろうとしている「選挙で意見を表す自由」は、私たちにとって当たり前のように思えるものです。日本では 18 歳から選挙権が与えられていますが、海外に住んでいる日本人の投票率はとても低く、去年の選挙では実質 1%ほどしか投票していなかったといわれます。せっかく与えられた権利を無駄にせず、民主主義を守るために一票を大切にしたいと改めて感じました。（青田）